|  |
| --- |
|  |
| 2022年度　報告書 |
| NPO法人Toppa  助成機関名：公益財団法人日本財団  URL：https://www.nippon-foundation.or.jp/ |
|  |
|  |
| 事業名：ひとり親家庭の保護者・子どもの進学支援  時期:2022年4月1日～2023年3月31日 |

|  |
| --- |
|  |

1.社会的背景と支援の必要性

コロナ感染拡大による経済的打撃はひとり親家庭の経済的困難を増加させた。

介護職や看護助手の方が多い。ダブルワークでバイトを掛け持ちしている方が多い。

「生活費を作るのに精いっぱいで,こどもとの関わることが少ない。子どもに申し訳ない気持ちがある。」とお母さん方は語っていた。こども食堂は熊本県内100か所ある。

独居老人の方も多いが,ひとり親家庭のこどもが多く,2か所を日替わりで行かれてる方

もいる。ひとり親家庭の中学・高校生の学習支援を行なう当団体の経験から,分数の計算ができない。中学英語が全く分かっていない。という生徒が8割程度いる。

塾に行っていないので学校についていっていない。経済的余裕のないひとり親家庭では,塾の費用は高すぎる。よって学力も低迷している。

　一方で,高校を中退しているお母さんが多い。

「介護職,医療事務の資格を母子会の支援で取ったが,求人票に「高卒以上」とあるので

　ひいてしまう。」というお母さん方が多い。

　ひとり親家庭の子どもへの支援は十分とは言えないが数は多い。

しかし,経済的柱であるお母さま方への支援は少ない。

2.当団体が提案したいこと

①お母さん方の学習支援を行なう必要がある。高卒認定試験支援・看護学校受験支援

②看護師など医療系専門学校への進学の際の給付金や貸与金(条件を満たせば返還義務なし)が大きい。しかし,ほとんどの方が知らない。

③看護師不足であること。

④看護師の平均給与は483万円(夜勤含む)熊本県の男性の平均給与424万円を

　ウを待っていること。

①②③④の現状より

【解決策】

段階1 ひとり親家庭の中卒の方の高卒認定受験合格100%にすること。

段階2 医療看護職に対する給付金・貸与金で学費が賄えることを周知すること。

　　　窓口はどこか,書類の提出先などの情報をお教えすること。

段階3 看護に興味のあるひとり親家庭のお母さま,高校生の看護学校大学進学

　　　　への受験合格の学習支援を行ない。100%合格させること。

　　　　看護師の国家資格を全員が取ること。

段階4 お母さまが看護師の資格を取り,経済的安定が図られ,こどもへの学習費用

　　　が賄えることで塾への参加が可能となり,学力があがり,全日制高校,大学への

進学率が増え,こどもの自立がかなえられる可能性が高くなり,結果貧困の連鎖

　　　が解決できる。

当団体は上記4段階の支援を継続実施する。

3.事業目的

○「ひとり親家庭看護学校進学支援事業」

①合格率(90%以上)を継続する。②看護師が増加し2025年問題の解決の一助となる。

③経済的安定し子女の大学進学率が高まる。貧困の連鎖の解消となる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　④オンライン配信録画で水害地震等被災地や熊本県内の広く指導できる。

○「ひとり親家庭進路相談事業」

①ひとり親家庭当低所得者への専門学校大学の「高等教育の就学支援新制度」による給付や減免、ひとり親世帯臨時特別給付金、保護者が看護学校など進学する場合高等職業訓練給付金月10万円などの支援制度があり、特に看護学校への支援制度は大きい。進学相談を実施する。高校や市町村に広報活動を行う。

4.事業内容

A「ひとり親家庭看護学校進学支援事業」

ひとり親家庭看護学校進学支援

(1)時期: 2022年4月〜2023年3月

(2)場所:オンライン,事業所拠点(江原予備校)

(3)対象:計35名(保護者、高校中退者、高校生)

(4)内容:基礎学力定着と医療系学校合格のための学習指導、高卒認定合格

B「ひとり親家庭相談支援事業と広報活動」

内容

ひとり親家庭進学相談及び広報活動

時期:2022年4月〜2023年3月

対象:ひとり親家庭の保護者、母子会、企業・ライオンズクラブ等

内容

進学相談会、 「ひとり親家庭看護学校進学リーフレット」の配布

事業継続資金確保のための広報活動

5.事業内容の実施状況

A「ひとり親家庭看護学校進学支援事業」

(1)時期:2022年4月～2022年3月(1か月4回×4時間)

(2)場所:NPO事務局

(3)参加者:ひとり親家庭父母・高校生17名(父母7名・高校生5名中学生4名) うちオンライン生徒1名 正看護学校合格6名　高認合格2名　熊本大学　合格1名高校合格3名次年度継続受験3名　病気による断念者(退塾者)1名

(4)内容:十分な基礎学力は全員獲得できた。看護学校は全員合格した。難関の労災看護合格。国立熊本大学合格者が出た。前年度のお母さまの生徒中学生3名高校合格。1名難関の電波高専に進学した。高卒認定も2名とも合格。

B「ひとり親家庭相談支援事業と広報活動」

(1)対象者:ひとり親家庭父母　　母子会LINE 約2,000名にちらしデータを配信していただいた。3回配信。熊本市こども支援課・保護支援課に出向き事業説明とパンフレットをお渡しした。子ども食堂を訪問しパンフレットとチラシをおかせていただいた。事業説明をした。

(2)内容:相談支援者のべ47名　105時間　進学相談・給付金・貸与金の説明や不登校相談を受けた。母子会で直接面談した方は3名いた。line works からの問い合わせが増えた。10件しかし文を返すと返信が来なかったことが多かった。気軽さはあっても応答説明が難しい。子ども食堂に訪問し,協力はしていただいたが入学金等用意できない方が多いとお伺いし問題点が残った。

6.事業結果の考察

A「ひとり親家庭看護学校進学支援事業」

【良かった点】

母子会の協力があったことは大きかった。今後も協力させていただきたい。LINEでの配信は効果があった。10月から1か月間集中的に指導したのがよかった。中学・高校のまとめプリントは効果があった。今年度は可能な限り生徒に来てもらった。受験に対するモチベーションが過去の生徒との面談等で高まった。

【課題点】

オンラインでの指導は15名を考えていたがなかなか決まらなかった。1名のみとなった。母子会を通じての申し込みであった。高認に問い合わせは数件あるが,オンライン生徒の環境がなかったり,また高認のハードルが高いように思われたのが原因と考える。オンライン拠点として協力してくれるところを探す必要がある。また高認テキストまとめが必要であると考える。

B「ひとり親家庭相談支援事業と広報活動」

【良かった点】熊本母子会の約2,000名会員向けLINEにチラシを発信していただいたのは大きかった。熊本市保護課からの問い合わせがきたことは良かった。LINE WORKSの手軽さがあり25名の登録者がでた。やはり子育て支援課や保護課に説明をしていくことが大切である。課全員に共有されているわけではないのでパンフレットを大目に持っていくこと接触回数を増やす必要がある。

【課題点】看護学校の入学金の準備が難しい問題がある。これまでの方は入学金を貯金して受験された方が大部分。二の足を踏まれる方が多い。母子寡婦貸付利用ができるので紹介したい。看護学校に入学金・学費の月謝制対応してくれるところもある。

【詳細は添付資料をご参照ください。】